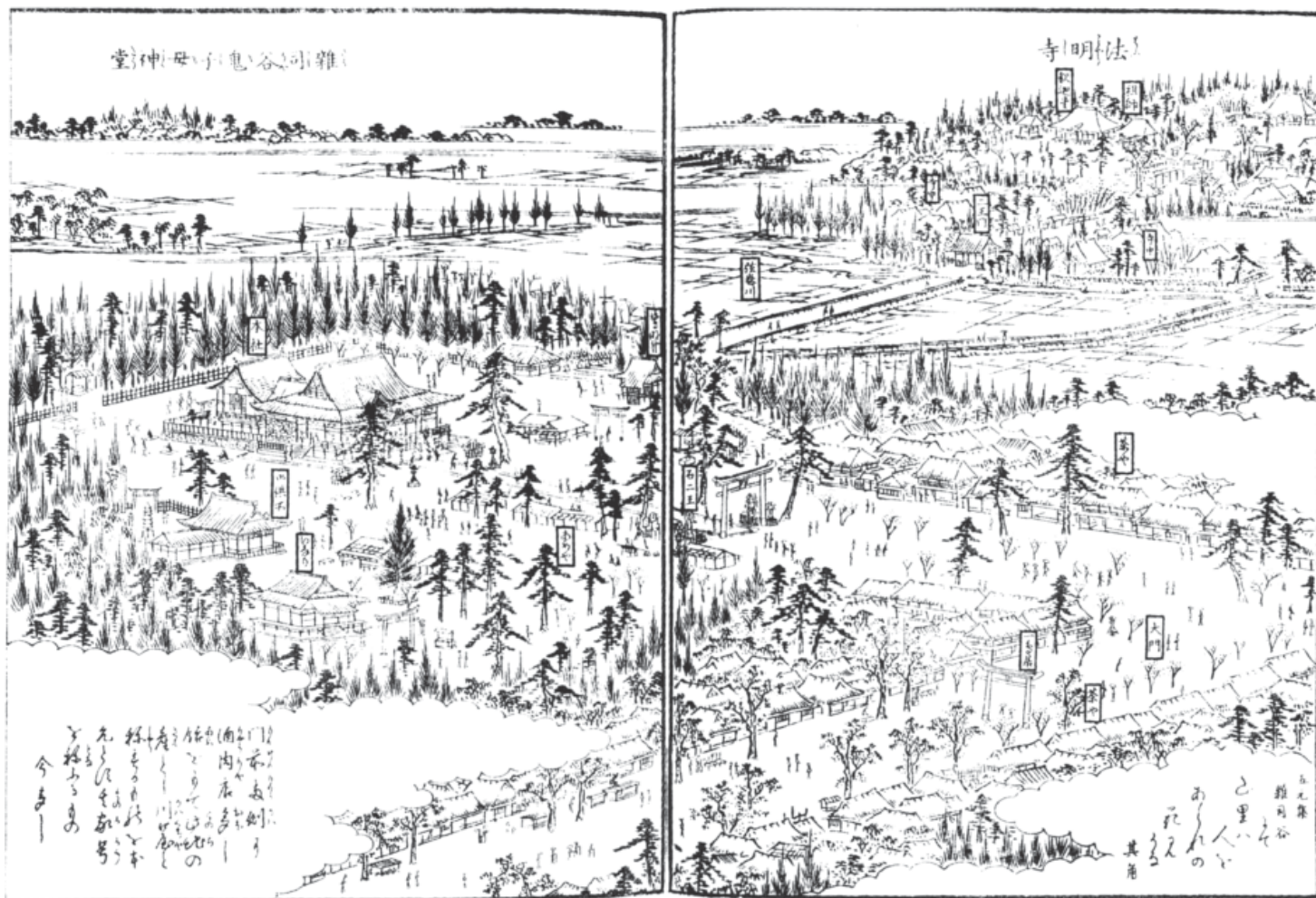


雑司が谷遺跡

雑司が谷遺跡は、縄文時代からの生活痕跡を連綿と残す複合遺跡です。特に、中世から近世にかけて、法明寺と鬼子母神堂は地域の中心的存在で、その頃の遺構や遺物がたくさん発見されています。

現在の目白通りは旧くは清戸道といわれており、練馬方面と江戸市中との物流の動脈となっていました。また、明治通りは板橋道といわれており、現在の鬼子母神西参道を経由して、宿坂（旧鎌倉街道）へと続いていました。



「江戸名所図会」 天保3（1834）年

中世の様子

調査範囲の北側の端を横切るように、中世の道の跡がみつかりました。この付近では地下式坑とよばれる遺構もみつまっていることから、交通の要衝であったと考えられます。

近世の様子

参道に近い場所では^{えな}胞衣納めの跡や地下室やゴミ穴が、やや離れると溝や生垣の跡が、さらに離れると畑の畝や苗床の跡、そこで使う黒土を掘り取った跡などが発掘されました。参道沿いで町場の生活が営まれた一方で、溝や生垣で画されたその背後では畑作なども行われていたのでしょう。

道の跡

両脇の窪みは側溝、路面の真ん中の洗濯板のような凸凹は基礎工事の痕です。

^{ちかしきこう} 地下式坑

本来は天井があったのですが、崩れてしまっていました。中から、愛知県^{とこなめ}常滑産の大甕の破片や中国から輸入された銭がみつかりました。

^{えな} 胞衣納めの跡

かつては、お産の後産の胞衣（胎盤）を建物の出入口に埋めて子供の健やかな成長を祈るという習俗がありました。ここでは、直径 20cm ほどのお皿形の土器を合わせ口にしたものに胞衣を納めたようです。



区画溝

溝

縁や底に木の根の跡があるところもあり、水は流れていなかったようです。

畑の畝跡

畝跡が何列も連なっています。幅が広いものや、一定間隔で深い小穴がいているものなど、何種類かあります。作っていた作物の種類によるのでしょう。

^{つちとりあな} 土取穴や苗床の跡

長方形の浅い窪みがびっしりと並んでいます。苗床の跡ではないかと考えられます。すぐそばには、苗床に入れる黒土を掘り取ったと思われる穴が一面に広がっていました。黒土がなくなって底に赤土が見えると、穴を掘り下げるのをやめています。

ごみ穴

町で出たゴミは、穴を掘って溜めていました。不要になった地下室などをゴミ穴として使うこともあったようです。このごみ穴では壊れた陶磁器や土器、漆塗りの碗などが見つかりました。

^{ちかむろ} 地下室

四角く掘った穴に屋根を架けただけのものが多いのですが、このように土階段のあるものや天井のあるものもあります。

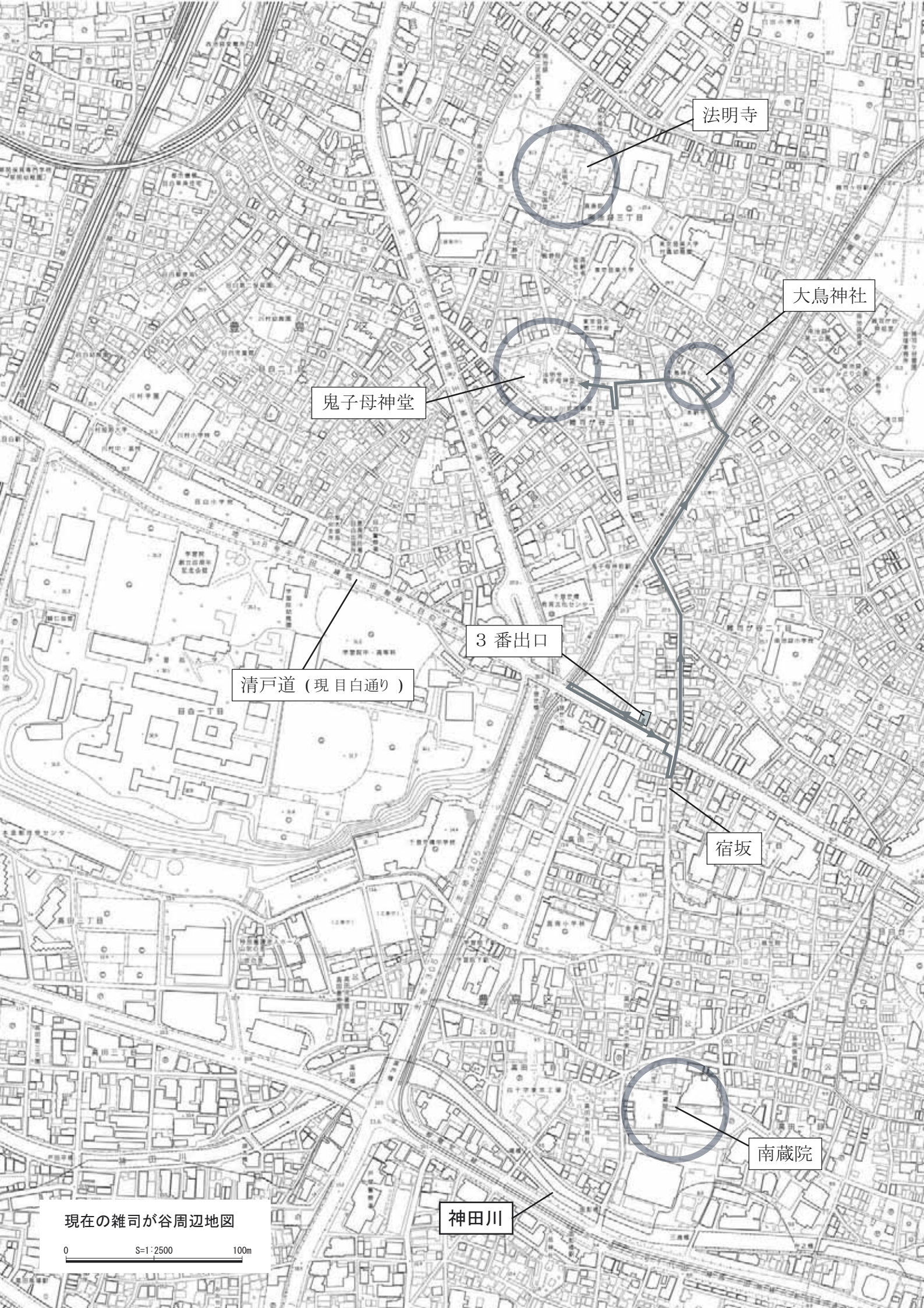


「西午出産の説」歌川国直画 天保14年（1843年）～弘化4年（1847年）江戸東京博物館「掘り出された都市」

胞衣納め



ごみ穴から出土した磁器皿



法明寺

大鳥神社

鬼子母神堂

清戸道 (現目白通り)

3番出口

宿坂

南蔵院

神田川

現在の雑司が谷周辺地図

0 S=1:2500 100m

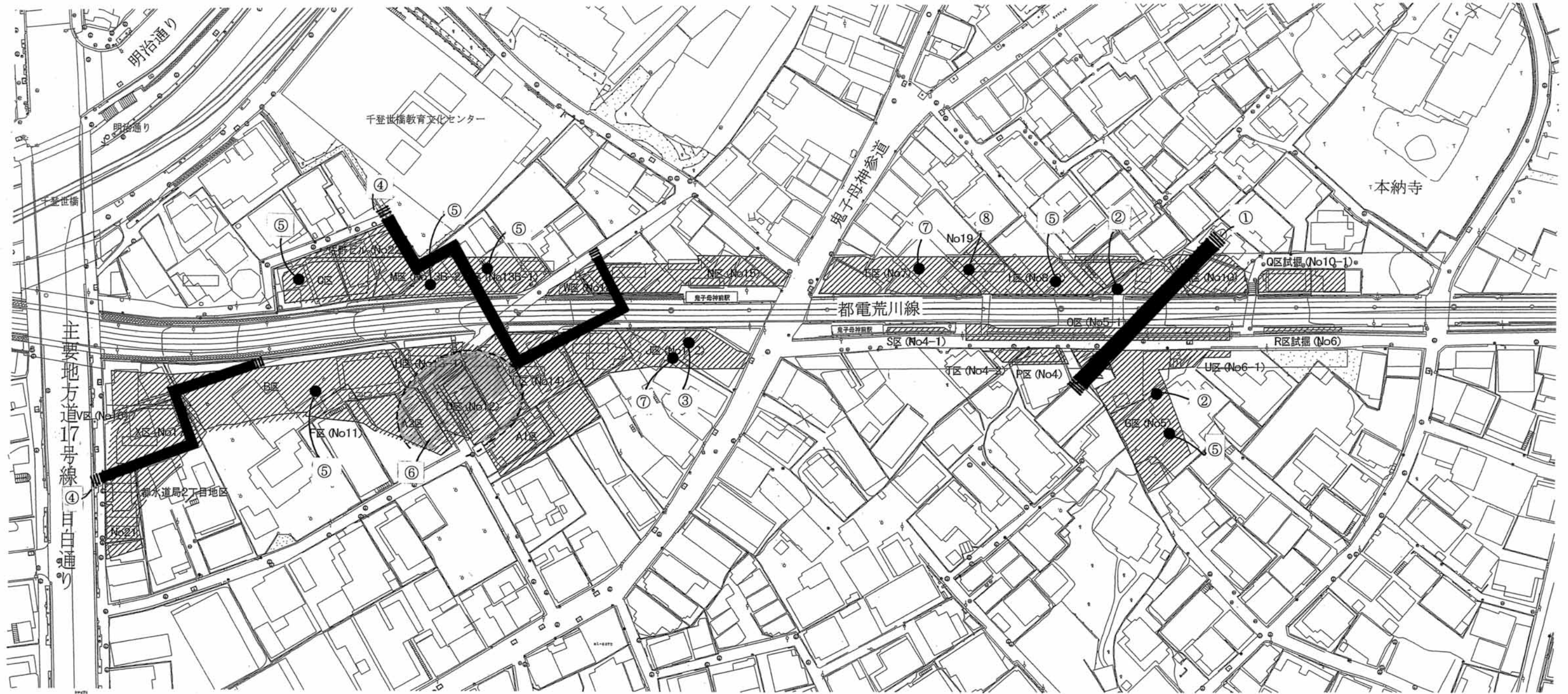
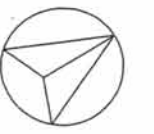


図4 東京メトロ13号線地区調査区位置図 (S=1/1000)

